



「巻頭特集」

「現代の寺子屋」から親子を見守って40年

すべての子どもがもつ素晴らしい能力を伝えたい

瀬戸市水野団地にある「くもん式きょう台教室」。
基礎学力を通して人間力を育てる教育を実践してきた。
開設以来、多くの親子が2代、3代にわたって通い続けている。
2020年度から小学校で、2021年度から中学校で、
そして2022年度には高等学校で「新学習指導要領」が全面实施される。
教育への関心が高まる今、子どもにとって本来必要なことを、永山さんに聞いた。

Profile

永山京子さん

1979年 くもん式きょう台教室開設
1989年 少年院においてくもん式指導が始まる
2001年 ユネスコ寺子屋会議で日本代表として発表
2011年 藍綬褒章
2019年 くもん式きょう台教室開設40年



永山さんの方針は「心技体整った子どもを育てる」こと。教室には「努力」「忍耐」「自立」「希望」「夢」の文字がかかげられている。ひとつずつ実践することで、夢がかなくと説く。その工程を忍耐つよく見守るのが、親やまわりの大人の役割であると40年伝えてきた。生徒たちは自分で考え自分で行動。失敗しても何回も繰り返して実力を養っていく

【問】くもん式きょう台教室 瀬戸市きょう台1-47 0561(48)2445

公文式教室開設から40年 人間力の育成にかけた日々

「我が子に学習させたい」と、くもんの教室を開設した永山京子さん。当時は、バブル経済の真つただ中。「基礎学力なんていらぬ」と考える人も多く、有名な学校に入学させ高い学歴を得たら、子どもは幸せな人生をあゆめる。そうも考えられた時代だった。

しかし、「人間としての土台や基礎がなければ、社会人になっても自分の人生を自力で生き抜いていけないのではいか」と永山さんは強く感じた。そして、くもん式教室の開設に向かう。

家庭教師や補習塾など学習のプロの力を借り、成績をあげることはできる。それを一時的にしないためには、自力をつける必要がある。「社会人になってから塾はありませんから」と笑う永山さん。指示待ちではなく自分から考えて学ぶ力を育てることが、何より大切であると考えた。

時代がどんなふうに変化しても、人間としての土台が育っていないければ、自立はできない。自然災害が発生したとき、自分の力や知恵で立ち上がり生き抜けるかどうかが重要だ。日本古来の武道で伝えられてきた「心・技・体」の3つの大切な柱は、学習面や人としての生き方にもあてはまる。「心」が強く育ち、高い「技」や能力をもち、健康な「体」がある。この3要素を、基礎学力を通して育てたいという。

我が子の可能性を信じて 誉めてじっと待てる親に

「自立」までに要する時間は、それぞれ異なる。大切なのは、親が子どもを信じてじっと待つこと。子どもが進む一歩一歩を、信じて待つてくれる大人の存在が子どもの成長を支える。本来の楽しさは、苦しい時間を乗り越えるから得られると永山さんは考える。そしてその先に、学ぶ喜びを知る。教室では、「自分からする」環境がある。「はじめはぐずぐずめめめめしていた子どもも、自分の学年を超えて、習っていない分野にも挑戦していきます」と話す通り、「場の教育力」がききょう台教室の魅力だ。

「人として大切なしつけは、集中力、がまん力、持続力、そして毎日の学習習慣にやる気。この5つを幼少期に家庭で身につけられたら、社会でいきていく強い力になります」と力を込める。

社会が変化するいま、親子の在り方も変わりつつある。共働きであっても、専業主婦であったりも、それぞれのおかれた家庭環境で、子どもとどう向き合っていくか。「たとえ5分でも温かく向き合う時間をつくり大切に育てられた子どもは、素直で頑張り子どもに育ちます。この世の中で、最も大切な宝物は、一人ひとりの子どもが育つことだ」と、

子どもの可能性のすごさを目にすると、心がわくわくします

く、授業内容を理解するための高い基礎学力を自力で身につける「自立学習」をめざしている。

基礎学力の重要性を説き続け、幼児期にがまんつよい心を育てる。そうすることで小学生のうちに高校レベルの国語、数学、英語の内容を自学自習で解く力を育てる。

「子どもが備えている力は、大人の想像をはるかに超えるものがあります」と目を輝かせる永山さん。年長の子どもの小学校5年生の分数を解いたり、年中の子どもの3桁の割り算に挑戦する姿を見ながら、「子どもの可能性のすごさを目にすると、心がわくわくします。誰でも努力することを知らず、必ず力を伸ばすんです」とうれしそうに続けた。

障がいの有無に関係なく、子どもは時間をかけて繰り返し努力することで、できることが増えていく。能力の高い子はさらに力を伸ばす。しかし反対に、能力が高くて、がまんつよく努力できなければ、どこかの段階で力は発揮できなくなる。「がまんつよく自分から学習する姿勢を育てる」のが、子育ての大切な点だと考える。



とりの子どもが自分の内面にもっています。その宝物を探し出すことこそ、大人社会に課せられた最大の義務なのです」と思いは熱い。

子どもの素晴らしさ、可能性を信じる。そして心強く自立できるように見守り育てるききょう台教室。子どもたちが自分の夢をもち、その実現に向けて諦めず努力できる人間に育つてほしい。その思いで大切に見守っている永山さん。「諦めない」「投げ出さない」「一生懸命する」をキーワードに、今日も子どもたちと向き合う。